

# 平成30年度「不登校に関する研修会」講義記録

【第1回】平成30年7月31日（火）姫路市市民会館

テーマ： 「不登校の子とその家族への支援」

講師： ヴィハルト千佳こ（鶴が峰心理グループ 代表）

## 1 なぜ不登校は減らないのか

- ・ 以前は学校に行かないと得られない情報が多かったが、現在は家庭においてもインターネット等から簡単に情報収集ができる。そのため、学校に行く動機が希薄になってきている。特に発達に課題のある子どもは目的がはっきり見えないと学校に行かなくなる傾向がある。
- ・ ネット上では匿名性があり、傷つきそうな時は切ることができるので安心である。そのため、学校でリアルに他者とかがかわるよりも楽なうえ、困難から逃避することができる。
- ・ 学校に価値を感じていない保護者が増えている（無関心、放置、ネグレクト、貧困、アンチ学校など）。
- ・ 普段からルーズな生活をしていたり、苦勞する場面から逃避したりしているため、耐性が低い子が増えてきている。
- ・ 対人関係が上手く築けずに学校社会に居場所を見つけられず、不登校になる子も多い。「いじめ」に繋がることもある。
- ・ 現在の不登校には、「家庭環境」「発達障害」「困り感がない」など、様々な要因が考えられる。

## 2 障害を起因とした不登校

- ・ 自閉症スペクトラム  
体育祭や修学旅行などのイベントには参加することが多い。ゲーム・ネット依存に陥りやすく、困り感がないという傾向がある。
- ・ 知的障害  
自宅でひっそりおとなしくしているが、普段は元気に過ごしている。困り感や不安感はある。
- ・ 愛着障害  
エネルギーがあれば非行に走り、なければ引きこもるという傾向にある。発達障害が愛着障害につながることもある。

### 3 ネットによる弊害

- ・ ネットでは、自分と反対の意見をあえて見ようとはしない。そのために考えが極端に偏る場合がある。例えば「学校なんか行かなくて良い、あたしも行ってないよ」など
- ・ 発達障害の子は、特にネット依存に陥りやすい傾向がある。

### 4 不登校児童生徒の学習支援

- ・ 学習が遅れている子には、基本的には進度に応じたプリントをさせたほうが良いが、本人のプライドを傷つけてしまう場合がある。ある適応指導教室では、一人ずつ壁に向かって学習し、隣の子が何をしているのかが分からないように工夫している。何よりも本人に達成感や自信を持たせることが大事である。
- ・ 子どもに指示するよりも「一緒にやろうよ」と語りかけた方が効果的である。
- ・ 得意な教科で自信がつき、学校復帰した例もある。

### 5 不登校児童生徒支援

- ・ 居場所の確保、自尊感情の補強、生活習慣の改善が大切である。
- ・ 家庭訪問に関する注意点
  - ① 訪問日、時間、話の内容を予め電話で伝えておく。発達障害の場合はサプライズは禁忌
  - ② 子どものプライベートゾーン（自室など）に勝手に入らない。

### 6 保護者支援（愛情が不足気味、愛着障害の事例の場合）

- ・ 「お子さんにもっと優しくしてください」など、原則として保護者に言わない。保護者は保護者で頑張っている。寄り添い、共感する姿勢が大切である。労いは必須。
- ・ 子どもの前で保護者のことを悪く言わない。

### 7 ゴールの設定

- ・ 本人のリソースを踏まえて、「この子の将来をどうするか」「この子は社会で活躍できるのか」などその子の将来（ゴール）をイメージして支援することが大切である。
- ・ 中学校の場合、卒業後の進路については必ず用意することが大切である。